

ISSN 1883-1656

Центр Российских Исследований
RRC Working Paper Series
No. 57



帝政ロシア・ソ連・現代ロシア
の金融統計の発展

中村 靖

April 2016

**RUSSIAN RESEARCH CENTER
INSTITUTE OF ECONOMIC RESEARCH
HITOTSUBASHI UNIVERSITY
Kunitachi, Tokyo, JAPAN**

帝政ロシア・ソ連・現代ロシアの金融統計の発展

中村 靖

横浜国立大学大学院国際社会科学府

[要旨]

金融統計の地理的対象はロシア帝国、ソ連、ロシア共和国の全体である。金融統計については、地域別統計情報を得ることが資料的、方法的に困難であるため、ロシアの地理的境界の変更を考慮した金融統計系列は作成できない。加えて、対象期間の大部分を占めるソ連期の金融制度が特殊であるため、金融統計指標を多国と比較することも、ロシア領域内で歴史的に比較することも困難である。ソ連期の社会主義のイデオロギーは貨幣と資本の廃絶を掲げていたのであり、後に述べるように短期間ではあるが銀行制度そのものが廃止されていた時期さえソ連期には存在していた。ソ連と市場経済の金融統計指標を比較する際には、慎重でなければならない。本稿では、まず統計指標の理解の前提となる各時期における金融制度の特徴を展望したのち、それぞれの時期の金融統計指標の特徴について説明する。

Abstract

It is difficult to adjust financial statistical data to territorial changes and to compare them between Russia Empire, the Soviet Union, and Russia, mainly because the financial systems in those three periods were very different from each other and that in a market economy. There was even a period when the banking system was abolished entirely in the early 1920s, although the period lasted less than one year. The financial system in the Russian Empire developed slow in relative to that in other West-European countries and was characterized by strong influence of the government. This characteristic seemed to be carried over in to the Soviet Union until the 1960s. State budget was at the center of the Soviet financial system, while bank financing had only a minor and subsidiary role. Even in the minor bank financing, the main financial source of bank loans was government deposits. This pattern of Soviet finance changed in the mid-1960s: the weight of bank financing increased rapidly. Household deposits almost exclusively financed the increasing bank loan supply, while the government sector turned to be a net absorber of financial resources. This financial system seemed unsustainable and, indeed, it collapsed eventually. After the collapse of the Soviet Union, the Russian financial system returned to a financial system more or less ordinary to a market economy; it is, however, still in the process to establish a sound financial system. The financial data are fragmental and often incomparable, reflecting all these developments in the Russian financial system.

はじめに

金融統計の地理的対象はロシア帝国、ソ連、ロシア共和国の全体である。金融統計については、地域別統計情報を得ることが資料的、方法的に困難であるため、ロシアの地理的境界の変更を考慮した金融統計系列は作成できない。加えて、対象期間の大部分を占めるソ連期の金融制度が特殊であるため、金融統計指標を多国と比較することも、ロシア領域内で歴史的に比較することも困難である。ソ連期の社会主義のイデオロギーは貨幣と資本の廃絶を掲げていたのであり、後に述べるように短期間ではあるが銀行制度そのものが廃止されていた時期さえソ連期には存在していた。ソ連と市場経済の金融統計指標を比較する際には、慎重でなければならない。以下では、まず統計指標の理解の前提となる各時期における金融制度の特徴を展望したのち、それぞれの時期の金融統計指標の特徴について説明する。表 1 は、本節で想定している銀行・信用史の時期区分を要約している。

[1] 帝政期の金融制度

帝政期の金融制度の発展は、1864 年の民間銀行設立を境として、前近代化期と近代化期にわけることができる。近代化以前の時期は、1754 年の 2 つの国営銀行の設立を契機にさらに 2 つに分けることができる。近代化期も、1894 年のロシア帝国国家銀行（帝国ゴスバンク）（Gosudarstvennyi bank Rossiiskoi imperii）の中央銀行化および 1897 年の金本位制導入を画期として、2 つの時期に細分することができる。以上の時期区分のもとで、帝政ロシアの金融制度の発展を概観する（表 1）。

帝政ロシアの経済発展が西欧諸国と比べて遅れていたことに対応して、帝政ロシアの金融制度の発展も遅れていた。しかし、1754 年になると、国家貴族銀行（Dvorianskii zaemnyi bank）と国家商業銀行（Kommercheskii bank dlia kupechestva）が設立され、その後もいくつかの国家金融機関が、従前の金融機関の改編あるいは新設により設立された。¹ 国家金融機関の設立は、帝政ロシア政府がまがりなりにも金融制度発展の必要性を認識していたことを示すものであるが、同時にロシア帝国の金融発展に対する国家関与が非常に強かったことを示している。これらの国家金融機関の主たる目的は、貿易金融における外国金融機関・企業への依存を打破するために商業信用を提供すること、および地主貴族への資金供給であった。主要な資金調達方法は、預金の受け入れではなく、政府財政資金かあるいは各銀行の不換紙幣（assignatsionnyi rubl'）発行であった。財務省は、国家銀行に強い統制を加え、各銀行の

¹ 1754 年以前については Kulisher [2004] (pp. 619–643) を参照。

資金の増減や銀行間の資金再配分を決定していた。各国家銀行の営業範囲は明確に定められ、国営銀行間の市場競争は存在しなかった。一方、資金借入側はしばしば、貸付の返済を怠った（Garvy [1972] p. 878）。帝政ロシア政府は金融制度の発達の必要性を認識していたが、ロシア金融経済の発展は 1754 年以降も西欧諸国と比べて相対的に遅かった。

[表 1 を挿入]

1854 年のクリミア戦争の敗北は、政府主導による近代化・工業化をさらに強化する契機となった。帝国ゴスバンクは農奴解放の前年の 1860 年に設立された。この時期の帝国ゴスバンクは、中央銀行というよりは、国家資金の経済への供給を主要な役割としていた。近代化・工業化の加速に伴い資金需要が増大していた一方で、1857-1859 年金融危機により従来の諸国家金融機関はほぼ破たん状態であった。外国銀行からの借入は月利 2% の高金利であった。ここで民営銀行の開設許可への要望が高まった。政府は資金貸付の政府独占維持を志向していたが、1864 年には最初の民間商業銀行の開設を許可した。この民間商業銀行設立開始をもって、帝政ロシアにおいて近代的金融制度の発展が本格的にスタートしたとみることができる。この後 1914 年までの期間には、民間銀行、公営銀行、各種金融機関の急増がみられる。しかし、クリスプ [1973] は、少なくとも 1890 年頃までは帝政ロシアにおける金融の中心は財政資金と外国資本であったとしている。銀行部門では、帝国ゴスバンクが大きな比重を占め、民間諸銀行の役割は相対的に小さいままであった（図 1）。

[図 1 を挿入]

近代的金融制度発展の次の契機は、1894 年の帝国ゴスバンクの中央銀行化と、それに続いて 1897 年におこなわれた金本位制導入であった。1897 年まで政府がルーブル紙幣を発行していたが、1897 年に帝国ゴスバンクが発券銀行となった（キャメロン（編） [1973] p. 407）。近代化開始以降、帝政ロシア経済は慢性的なインフレ状態にあったが、金本位制の導入により通貨価値の安定が達成された。クリスプ [1973] は、ロシア帝国の近代化はインフレーションを伴う通貨発行によってではなく、むしろ厳格な通貨発行規律のもとでおこなわれたとしている。

帝国ゴスバンクの中央銀行化後も、経済への資金供給における財政資金と帝国ゴスバンク

の役割は大きかった。帝国ゴスバンクは、1897年の中央銀行化までは、本質的には短期商業債権の割引による貸付をおこなう商業銀行であった。中央銀行化後も一部経済部門に対しては直接に資金を供給し続けていた（Garvy [1972] p. 882）。帝国ゴスバンクの対経済貸付額は、1905-1906年まで全商業銀行の貸付額より大きく、全貸付・割引業務についても帝国ゴスバンクの比重は1875年の15.4%から1908年の25.8%に上昇し、1914年1月1日でも20.2%であった（*ibid.*, pp. 882-883）。帝国ゴスバンクは1899年には預金受入を停止しているが、財務省預金および国営諸企業の当座勘定残高を資金源として貸付をおこなっていた。1914年時点で8,553組織存在した財務省管轄下の貯蓄金庫預金も帝国ゴスバンクの資金源となっていた。ただし、財務省資金の比重の大きさは、帝国ゴスバンクに限ったことではなかった。1914年時点でも、全銀行システムの原資の20%は財務省預金（*ibid.*, p. 884）であった。

ロシア帝国は、金融における国家の大きな役割という特徴を近代化後期においても持っていた。一方、標準的金融制度に向かう発展は社会主義革命に至るまで徐々に進んでいた。民間商業銀行は集中淘汰により大規模化し、第1次世界大戦直前の1914年時点で、民間株式商業銀行50行のうち12行が全商業銀行資産の79%（*ibid.*, p. 880）を保有していた。1917年革命直前のロシア帝国の金融機関の所有形態別構成は次のとおりである（*ibid.* ; Crisp [1973] ; Crisp [1976]）。

(1) 国営諸銀行

中央銀行の役割と部分的に直接信用供与を行う帝国ゴスバンク。この他、土地を担保として長期資金を供給する農民銀行と貴族土地銀行の国営抵当銀行2行がある。

(2) 民営諸銀行

(a) 株式銀行・有限責任銀行

10の農業抵当金融会社（corporations）以外の全株式銀行は通常の意味での商業銀行である。1914年に47の株式銀行が存在した。

(b) その他の企業形態の民営金融機関

ここには、貸付のほかに、株式取引、商業信用取引をおこなう各種金融機関が含まれる。

(3) 自治体および共同体諸金融機関

(a) 自治体諸銀行

財務省地方支所の管轄下にある。1916年で342行。

(b) 相互信用組織

商人の銀行の性格をもつ。1914 年で 1,108 組織存在し、会員数は 643,355 人。

(c) 信用組合

協同組合組織の経営体は 1897 年以降あらゆる経済分野にあらわれ、1906 年には一般的にみられる経営形態となった。1914 年には、14,652 の信用組合、貯蓄組合が存在していた。1912 年設立のモスクワ人民銀行 (Moskovskii narodnyi bank) が中央組織の役割を果たしていた。

(4) その他の互助組織、貯蓄組織、村落銀行など。

これらの金融機関に加えて、財務省管轄下に貯蓄金庫があった。貯蓄金庫は、1914 年時点で 8,553 支店・支所を擁していた。

[2] 社会主義期 (ソ連期) の金融制度

ソ連期の金融制度の基本的特徴は、モノバンク制度である。これは組織的には、中央銀行機能と決済および短期信用供与業務をすべておこなうソ連国家銀行 (ソ連ゴスバンク) のみが存在する一層制の金融制度を意味する。機能的には、国家予算金融が金融活動の中心にあり、銀行金融は補足的、補助的位置づけにある金融制度であった。

ソ連期における金融制度の展開は、まず 1930/1932 年信用改革を画期としてモノバンク制度が確立する前と後の 2 つに分けることができる。モノバンク制度の成立までには 15 年の時間を要している。その間、どのような金融制度、金融政策が構築されるのかは必ずしも明確ではなく、いわば混乱期であった。1917 年社会主義革命後、(1) 全通貨・信用システムを単一の銀行組織が担い、(2) その銀行組織を全経済活動の会計と監査をおこなうための道具とするというレーニンの教義に従い各種銀行、金融機関の人民銀行 (帝国ゴスバンクを改称) への統合がおこなわれた。1919 年には、銀行の国有化・統合化はほぼ終了した。企業も国有化されたため、経済に対する資金供給における国家予算資金の比重が増大した。しかし、革命直後の政府の財政基盤は弱体であったため、銀行による資金供給の比重も小さくはなかった (図 2)。

[図 2 を挿入]

金本位制は第 1 次世界大戦の勃発後 1914 年 1 月に帝政ロシア下で戦費調達のために停止

されていた。銀行貸付には証券，その他担保提供を必要とする原則は社会主義革命直後に放棄され，内戦が激化した 1919 年 5 月には人民銀行に対するすべての通貨発行制限が廃止され，通貨は国民経済の必要に応じて発行することとなった。1920 年 1 月には，人民銀行そのものが廃止され，紙幣発行は財務人民委員部（財務省）の業務となった。形式的には，1897 年以前の国家紙幣発行が再現されたことになる。もともと，実状は，第 1 次世界大戦から革命，内戦へと続く混乱の中でハイパー・インフレーションが進行し，金融制度も通貨も機能しない状態であった（Alkhimov (ed.) [1981] pp. 8-9）。1920 年 7 月 1 日時点で，1 ルーブルの価値は 1913 年ルーブルの 1/13,000 まで低下し，1921 年初期において賃金の 93% は現物給付であり，税金納付も現物化されていた。

1921 年に入り内戦が収束すると，経済復興のために国有企業の一部再民営化，市場機能の再導入を含む新経済政策（NEP）への政策転換がおこなわれた。NEP への移行とともに安定通貨と金融制度再建が必要となった。1921 年 10 月にロシア共和国 Gosbank² が創設され，再び銀行制度が導入された（ibid.）。続いて，1922 年から 1924 年にかけて，金本位通貨チェルボーネツの導入および市場でのチェルボーネツとルーブル交換レート決定による通貨価値の安定化，国家紙幣，各種代理通貨の発行停止，およびデノミネーションを伴う新券面通貨との交換によるそれら旧紙幣・代理通貨の回収といった手段により通貨改革がおこなわれた。³1925 年には，ルーブル紙幣発行権限が財務省から Gosbank へ最終的に移管され，ルーブルの銀行紙幣としての位置づけ，Gosbank の発券銀行としての位置づけが確立した。

NEP のもとで経済復興が進み，財政黒字，国際収支黒字が達成された。それに伴い，通貨価値は安定し，金融制度も発展した。NEP 期にはいくつかの国有銀行，公営銀行および農村部，都市部それぞれにおいて共済金融組織も設立され，部分的ではあるが金融機関の多様化がみられた（表 2）。このような金融制度の発展は，NEP から集権的経済運営への政策再転換とともに終わる。1927 年 1 月には，銀行を経済監査・管理の手段とするための前提である「1 経営体につき 1 銀行組織（支店）のみが取引をおこなう」との原則が導入された。さらに 1930 年から 1932 年にかけて「信用改革」がおこなわれ，これによってモノバンク制度

² 正しい名称はロシア共和国人民銀行である。その後，連邦化に対応するためソ連 Gosbank に改称。

³ チェルボーネツは 1924 年に発行停止され，1947 年に流通停止となっている（Kravtsova (ed.) [1983] p. 104）。

が基本的に完成した。

信用改革によって形成されたモノバンク期の金融制度の核心は次のようなものである（中村 [1984]）。第 1 に、標準流動資産の増加分を含む投資資金として、無利子・返済不要の国家予算資金を配分する。住宅建設や農業分野（集団農場）では専門の銀行による長期貸付（有利子・要返済）がおこなわれたが、これはいわば周辺分野に対する補助的措置であった。これらの長期貸付の源泉は基本的に予算資金であり、専門銀行は銀行というより、周辺分野向け投資用予算資金の管理機関であった。第 2 に、企業間金融はすべて禁止⁴され、短期的な資金需要はすべてソ連ゴスバンクの短期信用供与によってカバーする。標準流動資産の増分は予算資金で供給されるから、ソ連ゴスバンクの信用供与は、事前に資金需要を予想することが困難な、輸送中、決済中のつなぎ融資や季節変動する短期資金需要等のみが想定されている。さらにゴスバンクによる短期信用供与は、物的担保を必要とし、貸付資金は特定用途のみにしか利用できないとする制限的な方法でおこなわれた。つまり、経済活動への資金供給は基本的に予算資金でおこなわれ、銀行信用供与は補足的・補助的手段という位置づけであった。第 3 に、企業間の資金取引をすべて個別に監視するため、同一管轄官庁傘下の企業間の相殺決済を除くすべての決済は、1 取引ごとにゴスバンクの企業当座勘定間の振替決済でおこなう。

[表 2 を挿入]

このようなモノバンク制度は、1930/1932 年信用改革から 1988 年に二層式銀行システムへの移行が開始されるまで基本構造は変わらなかった。しかし、モノバンク制度には資金利用効率を引き上げるメカニズムの欠如、それと表裏一体の問題として預金通貨・銀行信用の管理方法の欠如という本質的問題があった。最近の資料、研究は、モノバンク制度成立から 10 年もたたない 1930 年代末から 1940 年代初期に、商業信用の再導入から物動計画の廃止にまで至る改革企画があったことをあきらかにしている（Davies [2001] pp. 69–79 ; Zverev [2012] pp. 110–124）。しかし、スターリンの粛清と、第 2 次世界大戦とその後の復興の混乱のもとで、そのような提案は具体化しなかった。1939 年から 1947 年の通貨改革に至る時期は、通貨発行による財政赤字補填が象徴する戦時経済の時期であり、そもそも金融経済が

⁴ ただし現実には、売掛金・買掛金のかたちでの企業間信用がモノバンク期全期間を通じて無視できない比重で存在し、黙認されていた。

正常に機能する状態ではなかった。1947年通貨改革の目的は、戦時期に蓄積された過剰流動性を除去し、戦時経済下で必要ではあったが不人気であった消費財配給制を撤廃する前提を築くことにあった。スターリン期におこなわれたこの通貨改革は、現金、預金、国債の一部没収という強権的方法でおこなわれたが、過剰流動性の除去には成功した。1947年通貨改革によりモノバンク制度が復活したが、それはモノバンク制度が抱える本質的欠陥を再生産することに他ならなかった。

モノバンク制度は、1954年を契機に一定の変化を見せる。1954年に党・政府は、利子支払・元金返済義務によって金融規律を強化し、資金利用効率を引き上げることを目的として、銀行信用の利用を拡大することを決定した。モノバンク制度の基本的要素の一つである銀行信用の補助的、補完的役割の見直しが表明されたことになる。一方、1957年には、国家予算金融において重要な変更がおこなわれた。発行済み国債の返済繰り延べがおこなわれるとともに、住民に対する国債の予約販売が廃止された。国債予約販売停止の直接的理由は、国債費の負担が大きくなり、国債販売による実効収入が見込めなくなったことにある（Allakhverdian (ed.) [1962] p. 323 ; Chetverikov (ed.) [1972] p. 51）。その背景には、戦費調達のためとはいえ1938年に国債返済繰り延べをおこない、さらに1947年通貨改革時には返済繰り延べと一部国債の没収とを既におこなっていた経緯があるのは間違いない。そもそも国債予約販売は事実上の強制貯蓄として家計には不人気な政策であった。実際、国債の予約販売がおこなわれている間、家計預金は低い水準にとどまっていた。一方で国債の予約販売を維持し、他方で国債の返済繰り延べをこれ以上繰り返すことの政治的、社会的コストは大きかったであろう。

1963年には、貯蓄金庫が財務省からソ連 Gosbank へ移管された（図3）。ただし、貯蓄金庫移管の直接の理由は明確ではないが、この移管はソ連資金循環のパターンを変えることになった。1963年以前、ソ連 Gosbank は戦争従事者にかかわる例外的ケースしか家計預金を受け入れていないため、ソ連 Gosbank は家計部門の資金を取り込んでいない。統計表2のソ連 Gosbank 主要バランスシート項目から対企業部門純資金ポジションをみると、当然のことながら、もっぱらソ連 Gosbank の対企業部門貸越しである。対外資産・負債の比重は小さい。したがって、ソ連 Gosbank の主要資金源は財務省預金残高であった。⁵ Garvy [1972 ; 1977] は、ここに帝政ロシアにおける国家主導の金融制度との共通性をみている。これに対し、1963年以降は、貯蓄金庫家計預金はソ連 Gosbank のバランスシートの負債

⁵ ソ連 Gosbank の対企業部門純資金ポジションは統計表2の LE-CE.

項目となり、主たる資金源となった。貯蓄金庫が財務省の管轄下にあった 1963 年まで、貯蓄金庫家計預金はもっぱら国債購入という形態で予算資金に組み入れられていた。したがって国債の予約販売のあるなしにかかわらず、1963 年までは家計部門の貯蓄は事実上すべて国家予算収入に組み込まれ、その反対項目として政府の国債債務があった。貯蓄金庫のゴスバンクへ移管とともに、政府は国債による資金調達という手段をほぼ放棄したことになる。⁶結果的に、1963 年以降、ソ連ゴスバンクの対財務省純資金ポジションは貸越しかわずかな借越にとどまり、財務省資金はゴスバンクの資金源泉としての役割はほとんど果たしていない。

[図 3 を挿入]

1954 年の銀行信用利用拡大方針は、1963 年の貯蓄金庫のゴスバンクへの移管により形式的に完結したといえる。ここにおいて、ゴスバンクは家計部門から調達した資金を企業部門に供給するという、市場経済における金融仲介機能と同等の機能を担うこととなった。実際、銀行金融は 1954 年以降著しく増大した（図 2）。ただし、銀行信用供給の増大はもっぱら短期信用供与の増大であった。具体的には、1930/1932 年信用改革以来の制限的信用供与方式に替わって当座貸越と同様の信用供与方式が導入されたことが短期信用供与を拡大した。投資資金として銀行が長期信用を供与することはソ連崩壊まで議論され続け、部分的には導入されたものの、特にソ連経済の中核をなす国営企業部門においては、投資資金供給は国家予算資金でおこなうという原則はソ連崩壊まで変わることはなかった。

1954 年を画期とするモノバンク制度の変化の根本的要因は、モノバンク制度下における資金利用効率の低さである。無利子・返済不要の予算資金金融が資金利用効率の上昇をもたらさないことは、ソ連内でも十分認識されていた。有利子・要返済の銀行金融の拡大はその改善策であった。しかし、通貨金融市場が存在せず、国家所有のもと企業、銀行、国家予算が経営責任的にも、金融的にも明確に分離していないソ連経済制度では、銀行金融方式への変更が資金利用効率の上昇に結びつく必然性は無かった。結局のところ、銀行信用も行政的に割当配分されていたのであり、その利子支払も元本返済もはじめから費用として折り込み済みである。実際、短期信用供与の増大は、資金利用効率の上昇ではなく、低下をもたらしていた（中村 [1984]）。この状況で、投資資金を銀行信用化しても、むしろ事態を悪化さ

⁶ くじ国債の販売等、国債販売はわずかにおこなわれていた。

せていただけであろう。

1930年代に形成されたモノバンク制度は1987年の二層式銀行制度への移行開始によって終焉を迎えた。1987年にゴスバンクは企業への信用供与業務を停止し、中央銀行としての役割に特化することとなった。替わって工業、農業、建設等の分野別に与信業務を行なう5つの国営銀行が設立された。民間金融機関の設立も可能となった。しかし、ソ連体制下のこの金融改革に明確な見通しは無かった。企業の金融的、経営的な自己責任を確立し、市場による資金配分を導入するならば、それは貨幣と資本が復活した市場経済以外の何物でもない。金融制度の観点からは、市場経済への移行によってモノバンク制度の改革が完成したといえる。

[3] 新ロシア期の金融制度

前節でみたように、新ロシア期の金融制度発展のスタートは、ソ連時代末期の1987年にさかのぼることができる。1988年の「協同組合法」は私営の金融機関の設立も認めた。1990年6月にソ連ゴスバンクのロシア連邦支店を改組してロシア連邦中央銀行（ロシア中銀）が設立され、同年12月に「ロシア連邦中央銀行法」が施行された。1991年12月のソ連解体までは、ソ連ゴスバンクとロシア中銀の併存状態だった。1991年末にソ連が解体され、1992年から市場経済移行、民営化がはじまるとともに、数多くの銀行が設立された。一方、1993年頃までロシア中銀による銀行規制は事実上機能していなかった（白鳥 [1996] pp. 4-5）。金融政策面でも、1992年初からショック療法的政策が開始されたが、ショック療法とは名ばかりの状態だった。ロシアの金融部門が、まがりなりにも市場経済のロジックで動くようになったのは、（1）旧ソ連諸国への自動的信用供与、（2）企業救済資金の提供（中央銀行貸付の行政的配分）、（3）財政赤字の中銀ファイナンスという3つのインフレーション・マネー供給経路が閉ざされた後の1995年ころからであった（Edwards [1995] p. 70 ; Balino [1998]）。

ソ連崩壊後もソ連時代のルーブルが旧連邦構成国の唯一の通貨だった。これらルーブル圏諸国の中央銀行とロシア中央銀行との間には、ソ連時代のゴスバンク支店としての関係以外の関係は存在していなかった。旧連邦構成国の中央銀行はルーブル紙幣は増刷できなかったが、⁷ロシア中央銀行と無関係にルーブル信用を自国の銀行・企業に供与すること（預金通貨発行）ができた。ロシア中銀には、この信用供与を統制するための手段は無く、統制しよ

⁷ ガイダル [1998] (p. 307) は「現金が貨車で各共和国に毎日運ばれた」と書いている。

うとする意向も当初は希薄であった。しかしインフレーションの進行を食い止めるため、ロシア中銀は 1993 年 7 月に旧ルーブル紙幣の流通を停止した。この唐突な紙幣交換は、ロシア国内経済に混乱をもたらしたが、これが契機となってロシア中銀は旧連邦構成共和国諸国の中央銀行とコルレス契約を締結し、これらの中央銀行がロシア中銀と無関係にルーブル信用を供与するという変則的状态を解消することに成功した（Balino [1998] ; 中村 [1999]）。その後、ルーブルの利用継続に利点の無くなった旧ソ連構成共和国は独自通貨発行へ切り替えてゆくことになる。

ロシア中銀は 1992 年以降も資金難に陥った企業を救済するために低利のソフト・ローンを提供し続けた。1993 年 5 月に、ロシア中銀・財務省は IMF の体制移行融資受入れにともなう共同声明を発表し、金融引締め政策への転換するとした。しかし、政治路線そのものがなお不安定であり、⁸それを反映して実質金利でみて低利の資金を中央銀行が行政的に配分するという実態であった（Rudnick [1994] p. 157）。1994 年 2 月にロシア中銀は入札最低金利をインターバンク市場金利以上とする中央銀行貸付のオークションを開始した。信用オークションの利用は少なかったものの、この信用オークションが行政的手法による中央銀行信用配分から市場メカニズムによる通貨信用管理への第一歩であった。1994 年後半には中央銀行貸付の行政的配分はおこなわれなくなり、実質金利はプラスになった（OECD [1995] p. 38）。その後、各種の市場経済的通貨政策手段が試行錯誤的に整備された（Balino et al. [1997] ; Balino [1998] ; Kamin et al. [1998]）。

1992 年には、対 GDP 比 14.2% のロシア統合政府予算赤字の全額がロシア中銀貸付で補填された。⁹1993 年と 1994 年のロシア統合政府予算赤字は対 GDP 比で 7.3%、10.3%、それらのうち 86%、70.5% が中銀貸付で補填された。1995 年予算から財政赤字の補填ためにロシア中銀が政府に直接資金を提供することが法律によって停止され、財政赤字のファイナンスは外国借款と国債発行でおこなわれることになった。

以上の経緯によって、1995 年頃からようやく市場経済的金融制度が機能し始めた（Edwards [1995] p. 70 ; Balino [1998]）。1995 年 4 月に 1990 年のロシア銀行法に代わる

⁸ ハズブラートフ最高会議長、副大統領ら保守派のクーデターがあったのは 1993 年 7 月であり、その後ようやくエリツィン大統領の市場経済移行政策が一定程度確立した方針となったことに注意を要する。

⁹ この時期のこれらの数字は資料によって異なることがある。詳細は、中村 [1999] (p. 125) を参照。

新たな「ロシア連邦中央銀行法」が施行され、¹⁰金融制度監督と金融政策の法的、制度的基盤が整った。1995 年後半からインフレーション率は低下し、実質貸付金利がプラスとなった。しかし、個々の金融機関の経営基盤も金融当局の監督体制も弱体であった。国債デフォルトを契機とする 1998 年金融危機は、多くの金融機関を破綻に導いた。その後、石油価格上昇による景気の好転に助けられ、基本的には効率的な市場経済的金融制度の構築を目指して金融部門の強化がはかられた。その後の 2008 年リーマン・ショック、2015 年資源価格低下の影響をみると、金融部門強化の道りはなお遠いと言わざるを得ない。

[4] 各時期の金融統計

帝政期の特徴は、金融制度・統計制度の発展状況から当然のことながら、包括的な金融統計が存在しないことである。1861 年以前は、金融部門全体についてのデータはほぼ存在しない。この時期については、Gindin [1948]、Morozan [2004] が金融統計の収集をおこなっているが、金融経済の全体像を統計的に描くにはほど遠い。

帝国ゴスバンク設立の年である 1861 年以降については、帝国ゴスバンクのバランスシート主要項目のデータは存在している (Gindin [1960] ; 統計表 1) 。ただし、帝国ゴスバンクのバランスシート総計のデータは見あたらない。Gindin [1960 ; 1997] および Salomatina [2004] は、1864 年以降の民間商業銀行についてのデータを収集している。しかし、帝国ゴスバンク、民間商業銀行以外の各種金融機関については、個々の金融機関についての資料はアーカイブに保管されているものが存在するものの、やはり包括的データは存在しないようである。

存在するデータにより帝政期ロシアの金融発展の大まかな特徴付けは可能であると考えられるが、金融制度全体をカバーするデータが存在しないことから金融制度の発展をマクロデータによって詳細に検討することは困難である。図 4 の 1861 年以降の通貨供給量はその一例である。1897 年の金本位制導入後に限ってみても、銀行券のほか金貨・銀貨が発行されている。実際には、これ以外の代理通貨の発行もおこなわれている。通常、通貨供給量として、帝国ゴスバンクの紙幣発行、金貨・銀貨発行、および当座勘定残高がもちいられる。金本位制導入以前は、より多くの代理通貨、並行通貨の発行があったと考えられるが、その包括的なデータは存在しない。金本位制導入後の通貨供給量について Drummond [1976] は、

¹⁰ 現在は、2002 年 10 月制定の「ロシア連邦中央銀行法」に依拠している (ロシア中銀ホームページ) 。

他金融機関保有分の現金通貨量の調整、財務省および貯蓄金庫について当座勘定残高をネットポジションとする調整をおこなっている。帝国ゴスバンクのバランスシート・データでは金本位制以降前後に通貨供給量の大きな減少がみられるが、Drummond 系列では低下は相対的に小さい。この例にみられるように、帝政期の金融統計については、存在するデータの代表性に常に注意する必要がある。

[図 4 を挿入]

ソ連期の金融統計は帝政期以上に問題が多い。まず公表されているデータが少ない。ロシア中銀 (Kashin and Mikov (eds.) [2010]) はアーカイブ資料から編集したソ連ゴスバンクのバランスシート集を 2010 年に刊行したが、それまでソ連ゴスバンクのバランスシートの基本項目すら公表されていなかった。現時点では、ソ連ゴスバンク以外の金融機関のバランスシート等や、ソ連構成共和国別の金融統計データは利用可能ではない。しかし、ソ連期の金融統計でもっとも問題であることは、通貨供給量や信用供給量を知り得たとしても、それが実体経済の状況とどのように関連するのかわからないことにある。これは市場経済とソ連経済における金融制度の相違によって金融統計の意味することが異なるという問題以上に本質的な困難を抱える問題である。市場経済においては、基本的には物価、金利、為替レート等の市場情報に依拠して、金融経済と実体経済との関係を観察する。ソ連経済には非市場競争的に決定された公定価格、公定金利、公定為替レートが存在していたものの、当然のことながら、これらの情報は金融経済の状況および金融経済と実体経済との関係を示すにはまったく不十分である。つまり、ソ連期においては、現に通貨が流通し、金融メカニズムを用いていた一方で、金融経済の状況を知るための情報は、単に公表されていないだけでなく、本質的に欠如していた。貨幣と資本を廃絶するというイデオロギー的要請によって通貨・金融市場を規制した一方で、現実的必要から通貨・金融メカニズムを利用し続けたという矛盾のあらわれというしかない。

通貨史的観点からみると、ソ連体制の成立時期は金本位制から管理通貨制への移行の時期にあたる。金本位制離脱直後は、どの国の通貨当局も非金本位制のもとでどのように通貨供給を管理するか明確な観念は持っていなかった。結局、市場経済諸国は、それがどの程度成功しているかの評価は別として、市場から得られる情報と市場に介入する金融政策によって市場適応的に通貨供給を管理する方法を確立した。一方、ソ連経済は、最後まで通貨を管理

する方法を確立できなかった。ソ連当局はソ連崩壊までルーブルの価値はその金価値に依拠していると主張していた。ルーブルの金価値は、概念的にはNEP期に再導入された金本位通貨チェルボネツまでさかのぼることができる。¹¹実際、当時の党・政府は、1922/1924年通貨改革の目的の一つとして金本位制導入による通貨価値の安定を明示していた。しかし、ルーブルの金平価はいかなる経済的意味も持っていなかった。誰もルーブル紙幣と金とを交換することはできなかったからである。しかし、ソ連経済において通貨価値を管理する有効な方法は事実上存在しなかったから、ルーブルの金価値という誰もまともに受け取ることのない建前を主張するしかなかった。ルーブルの価値を知りえない以上、ソ連期の金融経済で何が起きていたのかは、外部の観察者だけでなく、ソ連内部の観察者も知ることができなかった。

新ロシア期の金融統計は、その質についてはなお疑問があるものの、整備は進んでいる。標準的なデータの例として、IMFの *International Financial Statistics* は、ロシアの1991年末からデータを掲載している。ただし1994年まではマネタリー・サーベイのみである。1994年以降は、通貨当局、預金通貨銀行、マネタリー・サーベイの標準的形式でデータが発表されている（図5）。2006年からバンキング・サーベイに加えて、フィナンシャル・サーベイ（預金通貨銀行以外の金融機関を含む）を公表している。2012年からは制度部門（非金融法人部門、金融法人5部門、政府部門、家計NPISH統合部門、その他世界部門）別資本調達勘定金融取引表を公表している。標準的金融統計でなお公表されていない統計は資金循環統計のみであると思われる。ソ連期との対比で重要な点は、市場に依拠した金融統計情報が存在するという意味で新ロシア期の金融統計は市場経済における標準的な金融統計となっている点である。金融統計の観点からは、市場経済移行、つまり通貨・金融市場の再導入とは、まさにソ連期における情報の本質的欠如を解消することであった。

[図5を挿入]

参考文献

[和文文献]

ガイドル、エゴール・T。（中沢孝之訳）[1998]『ロシアの選択：市場経済導入の賭けに勝ったのは誰か』ジャパントイムズ。

¹¹ ルーブルの金価値量は必要に応じて変更されている。

- キャメロン, R. (編) (正田健一郎訳) [1973] 『産業革命と銀行業』 日本評論社.
- クリスプ, O. [1973] 「ロシア 1860 年—1914 年」 キャメロン (編) [1973], pp. 25—332.
- 白鳥正明 [1996] 『ロシア連邦の銀行制度研究：1992—1996 年』 日本経済評論社.
- 中村靖 [1984] 「ソ連における信用制度と信用理論」 『研究年報経済学』 46 卷 3 号, pp. 5—66.
- [1999] 「金融部門と資金循環」 久保庭真彰・田畑伸一郎 (編) 『転換期のロシア経済：市場経済移行と統計システム』 青木書店, pp. 105—125.

[英文文献]

- Balino, T.J.T. [1998] “Monetary Policy in Russia,” *Finance and Development*, Vol. 35, No. 4, Dec.
- Balino, T.J.T., D.S. Hoelscher, and J. Horder [1997] *Evolution of Monetary Policy Instruments in Russia*, IMF Working Paper, WP/97/180, International Monetary Fund.
- Crisp, O. [1976] *Studies in the Russian Economy before 1914*, Macmillan, London.
- Davies, R.W. [2001] “Making Economic Policy,” in P. R. Gregory (ed.) *Behind the Façade of Stalin’s Command Economy: Evidence from the State and Party Archives*, Hoover Institution Press, Stanford, pp. 61–80.
- Drummond, I. [1976] “The Russian Gold Standard, 1897–1914,” *The Journal of Economic History*, Vol. 36, No. 3, Sep., pp. 663–688.
- Edwards, B. [1995] “Can Yeltsin keep his nerve?” *Euromoney*, No. 4, pp. 68–76.
- Garvy, G. [1972] “Banking under the Tsars and the Soviets,” *The Journal of Economic History*, Vol. 32, No. 4, Dec., pp. 869–893.
- Garvy, G. [1977] *Money, Financial Flows, and Credit in the Soviet Union*, Ballinger, Cambridge.
- IMF [2005] *International Financial Statistical Yearbook, 2005*, IMF, Washington, D.C.
- IMF [2015] *International Financial Statistical Yearbook, 2015*, IMF, Washington, D.C.
- Kamin, S., P. turner, and J. Van ’t dack [1998] *The Transmission Mechanism of Monetary Policy in Emerging Market Economies*, BIS Policy Papers, No. 3, pp. 5–64, Bank for International Settlements, Basle.
- Mitchel, B.R. [1993] *International historical statistics: Europe 1750–1993*, 4th ed., Macmillan, London.

OECD [1995] *OECD Economic Surveys: The Russian Federation 1995*, OECD Publications, Paris.

Rudnick, D. [1994] "First sort out the banks," *Euromoney*, No. 3, pp. 157–163.

[露文文献]

Alkhimov, V. S. (ed.) [1981] *Gosbank SSSR i ego rol' v razvitii ekonomiki strany 1921–1981*, Finansy i statistika, Moscow.

Allakhverdian, D. A. (ed.) [1962] *Finansy SSSR*, Gosfinizdat, Moscow.

Chetverikov, P.A. (ed.) [1972] *Sberegatel'nye kassy SSSR za 50 let*, Finansy, Moscow.

Gindin, I. F. [1948] *Russkie kommercheskie banki: iz istorii finansovogo kapitala v Rossii*, edited by S. G. Strumilin, Gosfinizdat, Moscow.

————— [1960] *Gosudarstvennyi bank i ekonomicheskaiia politika tsarskogo pravitel'stva, 1861–1892 gody*, Gosfinizdat, Moscow.

————— [1997] *Banki i ekonomicheskaiia politika v Rossii (XIX–XX v.): isbrannoe: ocherki istorii i tipologii russkikh bankov*, Nauka, Moscow.

Kashin, Iu. I. and V. V. Mikov (eds.) [2010] *Balansy gosudarstvennogo banka SSSR, 1922–1990 gg.* [Po stranitsam arkhivnykh fondov Tsentral'nogo banka Rossiiskoi Federatsii, vypusk 9], CBR, Moscow.

Khromov, P.A. [1950] *Ekonomicheskoe razvitie Rossii v XIX–XX vekakh, 1800–1917*, Gosudarstvennoe izdatel'stvo politicheskoi literatury, Moscow.

Kravtsova, G. I. (ed.) [1983] *Denezhnoe obrashchenie i kredit*, Vysheishaia shkola, Minsk.

Kulisher, I. M. [2004] *Istoriia russkogo narodnogo khoziaistva*, edited by M. G. Pokidchenko and E. H. Kalmychkova, Nauka, Moscow.

Morozan, V. V. [2004] *Istoriia bankovskogo delo v Rossii: vtoraiia polovina XVII pervaiia – polovina XIX v.*, Kringa, Saint Petersburg.

Salomatina, S. A. [2004] *Kommercheskie banki v Rossii: dinamika i struktura operatsii 1864–1917 gg.*, ROSSPEN, Moscow.

Zverev, A.G. [2012] *Stalin i den'gi*, Algoritom, Moscow.

[公刊統計資料]

『ソ連統計年鑑 1958年版』 : TsSU SSSR [1959] *Narodnoe khoziaistvo SSSR v 1958 godu*,

Gosizdat TsSU SSSR, Moscow.

『ソ連統計年鑑 1960年版』 : TsSU SSSR [1961] *Narodnoe khoziaistvo SSSR v 1960 godu*,

Gosizdat TsSU SSSR, Moscow.

『ソ連統計年鑑 1962年版』 : TsSU SSSR [1963] *Narodnoe khoziaistvo SSSR v 1962 godu*,

Gosizdat TsSU SSSR, Moscow.

『ソ連統計年鑑 1963年版』 : TsSU SSSR [1964] *Narodnoe khoziaistvo SSSR v 1963 godu*,

Statistika, Moscow.

『ソ連統計年鑑 1964年版』 : TsSU SSSR [1965] *Narodnoe khoziaistvo SSSR v 1964 godu*,

Statistika, Moscow.

『ソ連統計年鑑 1965年版』 : TsSU SSSR [1966] *Narodnoe khoziaistvo SSSR v 1965 godu*,

Statistika, Moscow.

『ソ連統計年鑑 1968年版』 : TsSU SSSR [1969] *Narodnoe khoziaistvo SSSR v 1968 godu*,

Statistika, Moscow.

『ソ連統計年鑑 1970年版』 : TsSU SSSR [1971] *Narodnoe khoziaistvo SSSR v 1970 godu*,

Statistika, Moscow.

『ソ連統計年鑑 1975年版』 : TsSU SSSR [1976] *Narodnoe khoziaistvo SSSR v 1975 godu*,

Statistika, Moscow.

『ソ連統計年鑑 1980年版』 : TsSU SSSR [1981] *Narodnoe khoziaistvo SSSR v 1980 godu*,

Statistika, Moscow.

『ソ連統計年鑑 1981年版』 : TsSU SSSR [1982] *Narodnoe khoziaistvo SSSR v 1922–1982 gg.*

(*iubileinyi statisticheskii ezhegodnik*), Finansy i statistika, Moscow.

『ソ連統計年鑑 1982年版』 : TsSU SSSR [1983] *Narodnoe khoziaistvo SSSR v 1982 godu*,

Finansy i statistika, Moscow.

『ソ連統計年鑑 1984年版』 : TsSU SSSR [1985] *Narodnoe khoziaistvo SSSR v 1984 godu*,

Finansy i statistika, Moscow.

『ソ連統計年鑑 1985年版』 : TsSU SSSR [1986] *Narodnoe khoziaistvo SSSR v 1985 godu*,

Finansy i statistika, Moscow.

『ソ連統計年鑑 1987年版』 : Goskomstat SSSR [1988] *Narodnoe khoziaistvo SSSR v 1987*

godu, Finansy i statistika, Moscow.

『ソ連統計年鑑 1989年版』 : Goskomstat SSSR [1990] *Narodnoe khoziaistvo SSSR v 1989*

godu, Finansy i statistika, Moscow.

『ソ連統計年鑑 1990年版』 : Goskomstat SSSR [1991] *Narodnoe khoziaistvo SSSR v 1990 godu*, Finansy i statistika, Moscow.

『大祖国戦争期のソ連経済 1941-45年 : 統計集』 : Goskomstat SSSR [1990] *Narodnoe khoziaistvo SSSR v otchestvennoe voine 1941-45 gg.*, Informatsionno-izdetel'skii tsentr, Moscow.

[アーカイブ資料]

『文書館資料 1918-1937年のソ連国家財政』 RGAE F.7733, Op.15, D.491: *Narodnyi komissariat finansov SSSR. Gosudarstvennyi biudzheth SSSR 1918-1937 gg.*

『文書館資料 1923/24-1943年のソ連国家財政執行の経済的レビューとソ連国家財政資料』
RGAE F.7733, Op.36, D.1847: *Ekonomicheskie obzory po ispolnenyu gosudarstvennogo biudzheta SSSR za 1923/24-1943 gody i materialy k gosudarstvennomu biudzhetu SSSR.*

『文書館資料 ソ連の金融 : 統計集』 RGAE F.1562, Op.41, D.543: TsSU SSSR. *Finansy SSSR. Statisticheskii sbornik.*

『文書館資料 ソ連の金融 : 統計集, 1961-1962年』 RGAE F.1562, Op.41, D.654: TsSU SSSR. *Finansy SSSR. Statisticheskii sbornik, 1961-62 gg.*

『文書館資料 ソ連の金融 : 統計集, 1963-1964年』 RGAE F.1562, Op.41, D.885: TsSU SSSR. *Finansy SSSR. Statisticheskii sbornik, 1963-64 gg.*

『文書館資料 ソ連の金融 : 統計集, 1965-1966年』 RGAE F.1562, Op.41, D.1093: TsSU SSSR. *Finansy SSSR. Statisticheskii sbornik, 1965-66 gg.*

『文書館資料 ソ連の金融 : 統計集, 1968-1969年』 RGAE F.1562, Op.41, D.1413: TsSU SSSR. *Finansy SSSR. Statisticheskii sbornik, 1968-69 gg.*

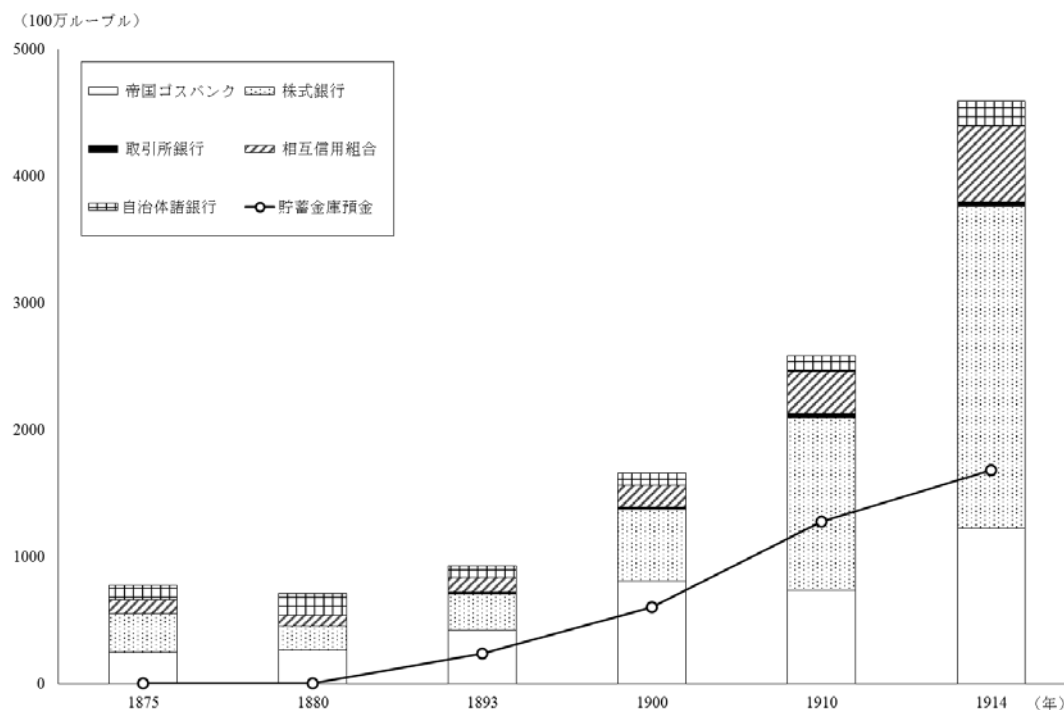
『文書館資料 1970年のソ連国家財政執行報告』 GARF F.R7523, Op.104, D.112D: *Otchet ob ispolnenii gosudarstvennogo biudzheta SSSR za 1970 god.*

表1 帝政ロシア・ソ連・新ロシアの金融史

	時期	時期区分	
1754—1863	帝政期	プロト工業化	国家金融機関
1864—1896		工業化・前半	民営銀行，非標準的中央銀行
1897—1917		工業化・後半	金本位制，非標準的中央銀行
1917—1922	ソ連期	非モノバンク・混乱	銀行国有化，ハイパーインフレ，銀行廃止
1922—1926		非モノバンク・NEP	金本位制再導入，中央銀行・金融機関復活
1927—1932		モノバンク準備	モノバンク制導入準備，「信用改革」
1933—1953	ロシア期	モノバンク全盛	財政金融中心，銀行の補助的役割，戦時経済
1954—1987		モノバンク衰退	銀行利用拡大，金融管理方法の模索
1988—1991		モノバンク崩壊	二層式銀行制度・民間金融機関の復活
1992—1995		移行混乱期	ハイパーインフレ
1995—現在		標準金融制度確立期	標準的金融制度の構築

(出所) 筆者作成.

図1 帝政期ロシアの金融機関の比重

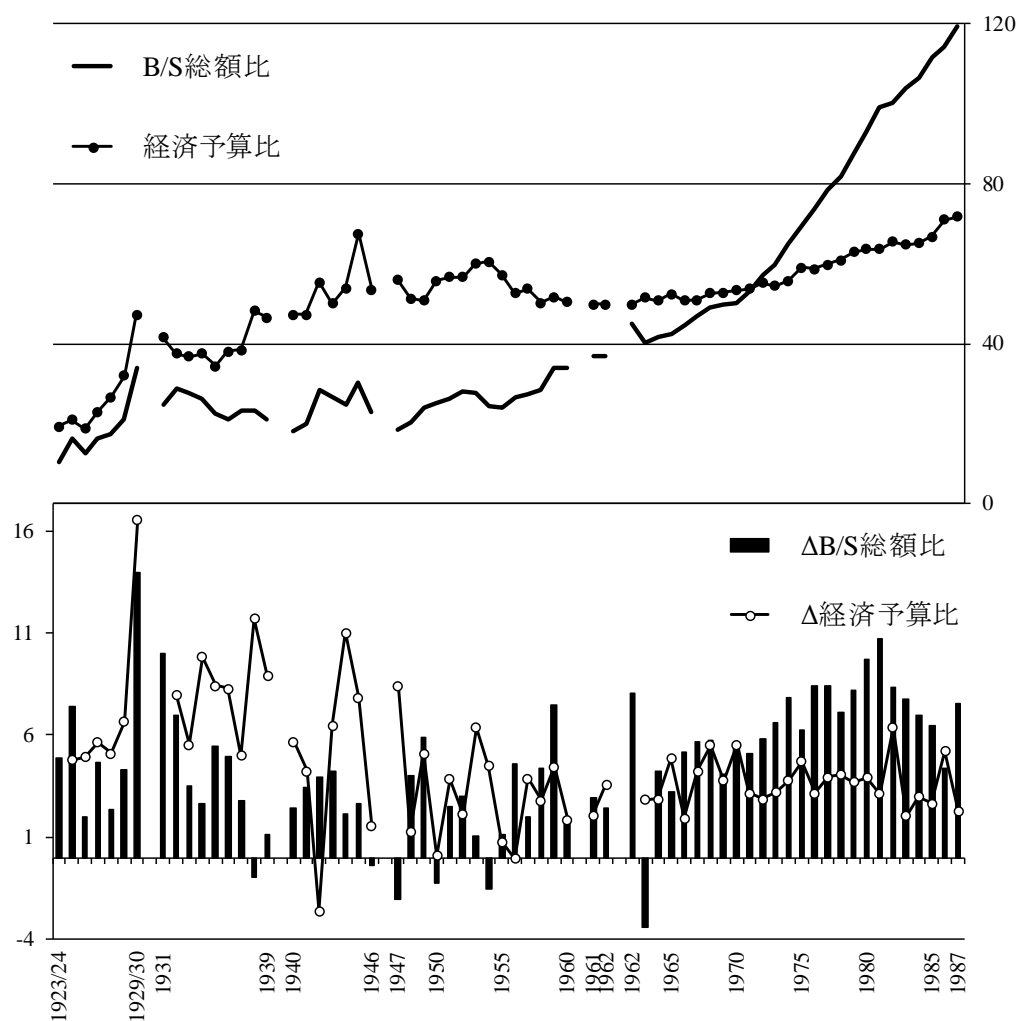


(注)

- 1) 預金残高および当座勘定残高の合計。百万ルーブル。
- 2) 株式銀行，取引所銀行が，本文中の株式銀行・有限責任銀行にほぼ対応する。Gindinの相互信用組合が本文中の共同体諸金融機関のどの程度をカバーしているか明確でない。国営，民営の抵当銀行は入っていないと思われる。

(出所) Gindin [1948] (pp. 410-411) .

図2 予算金融と銀行金融（対名目生産国民所得比%）



(注) 対経済国家財政支出 (SBE) は、ソ連とソ連構成共和国の予算を統合した国家予算総額の中の経済費。

(出所) 統計表 2.

表2 ソ連ゴスバンクの全銀行貸付に占めるシェア (%)

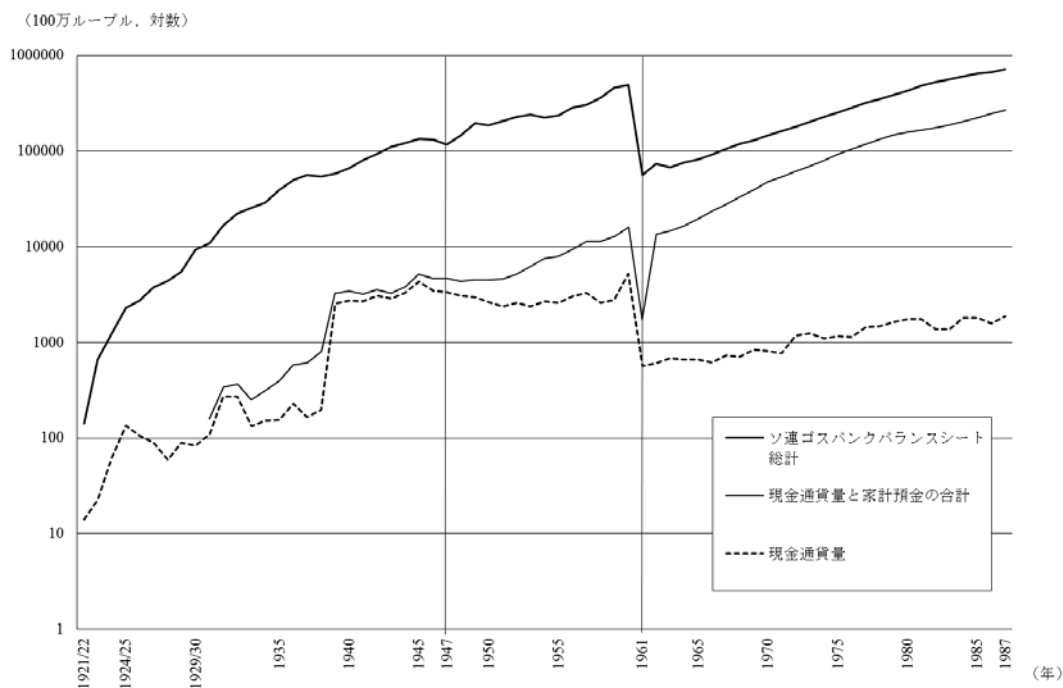
	短期貸付	全貸付
1923/1924*	67	66
1926/1927*	57	48
1932	97	65
1940	99	91
1950	94	89
1960	96	95
1970	92	89
1980	85	80
1987	91	88
1990	1.3	0.1

(注) 各年年末. 1923/1924 および 1926/1927 は, 9 月末に終わる経済年度 (*).

(出所) 1987 年は, 『ソ連統計年鑑 1987 年版』 p. 595 および Kashin and Mikov (eds.)

[2010] p. 75. 他の年は, Kashin and Mikov (eds.) [2010] p. 8.

図3 ソ連期通貨供給（各期末ストック，100万ルーブル）

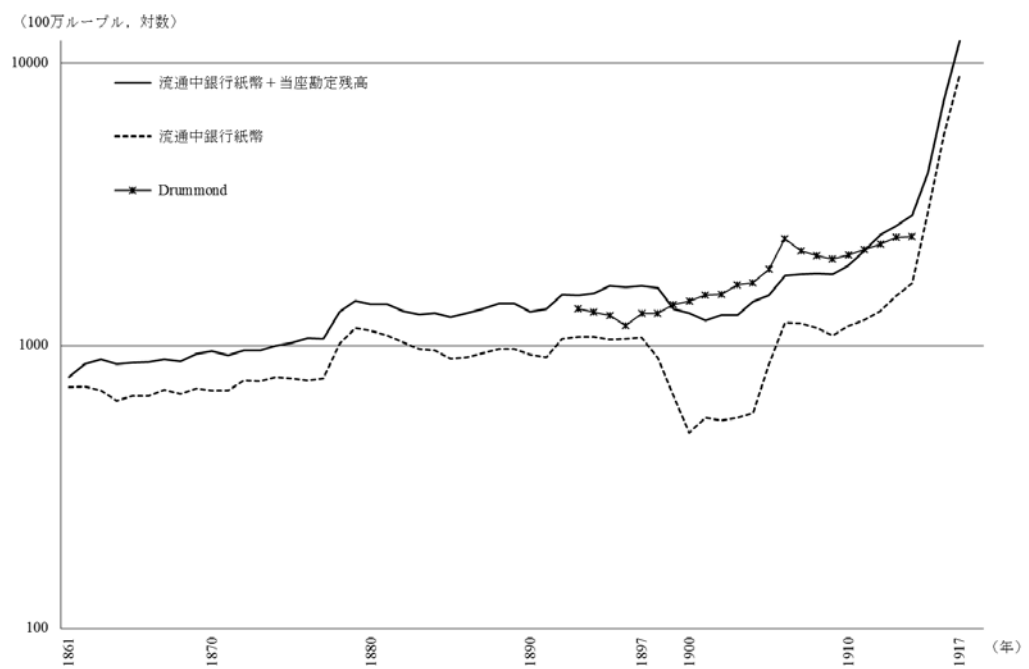


(注)

- 1) 1921/22, 1924/25, 1929/30 は経済年度（表 2 の注参照）。家計預金は貯蓄金庫預金。1963 年のソ連ゴスバンクへの貯蓄金庫の移管以前は，ソ連ゴスバンクのバランスシート外の家計預金額を現金通貨量に加えたもの。現金はルーブル紙幣のみ。
- 2) 1961 年の減少の大部分はデノミネーションによるもの。

(出所) 統計表 2.

図4 帝政ロシア期の通貨供給（年末残高）

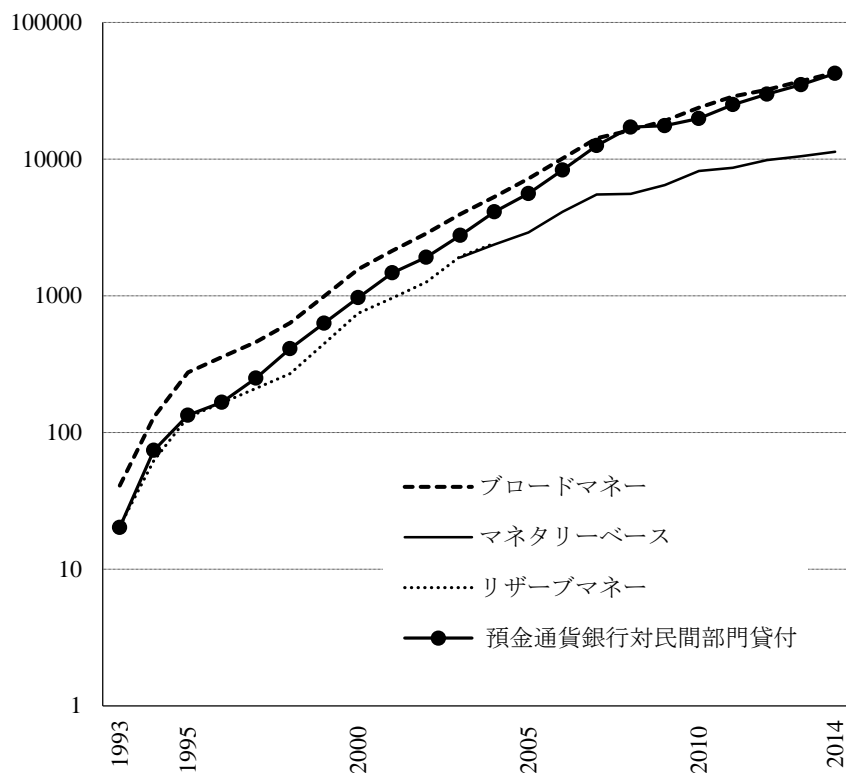


（注）

- 1) 銀行紙幣は信用通貨を意味する。当座勘定残高は、国庫金残高、貯蓄金庫当座預金残高を含む。Drummond は、銀行紙幣に加えて金貨銀貨の金属通貨を含む。

（出所）統計表 1.

図5 ロシアの通貨供給と金融発展（年末、100万ルーブル）



(注) 定義の変更により、マネタリーベースとリザーブマネーには若干の違いがある。

(出所) IMF [2005] pp. 501-503 ; IMF [2015] pp. 678-683.

統計表 1 ロシア帝国期金融統計 (年末, 百万ルーブル)

Table 1 Financial time series of the Russian Empire (EOY, million Ruble)

	1	2	3	4	5	6	7	8
	預金 Deposits							
	貯蓄金庫 Sberkassa	株式会社銀行 Joint stock banks	商業銀行 Marchant banks	うち当座預金 current accounts	ロシア帝国 Imperial	ゴスバンク Gosbank	計 Total [1] + [2] + [5]	国庫金を除く ゴスバンク預 金残高 Deposits of Imperial Gosbank excluding treasury's funds
						国庫金預金 Deposits of treasury		
1861					62	30		
1862					146	33		
1863					202	42		
1864					224	62		
1865					206	40		
1866					212	40		
1867					197	32		
1868					204	49		
1869					233	50		
1870	5				262	62		
1871					228	56		
1872					207	32		
1873					211	17		
1874		274.5	154.4	120.1	224	17	498.5	
1875	5	299.7	179.3	120.4	256	30	560.7	
1876		277.7	173.2	104.5	311	48	588.7	
1877		227.3	146.2	81.1	290	60	517.3	
1878		274.6	128.1	146.5	305	39	579.6	
1879		254.3	116.6	137.7	289	30	543.3	
1880	8	197.0	93.9	103.1	268	42	473.0	
1881	9	206.9	96.8	110.1	313	89	528.9	
1882	11	227.0	102.9	124.1	299	70	537.0	
1883	13	210.5	99.6	110.9	318	58	541.5	
1884	17	213.6	94.1	119.5	344	79	574.6	
1885	25	219.2	96.5	122.7	357	66	601.2	
1886	42	264.2	110.5	153.7	392	72	698.2	
1887	65	255.1	103.5	151.6	407	118	727.1	
1888	88	235.0	92.2	142.8	432	167	755.0	
1889	111	211.6	89.3	122.3	436	185	758.6	
1890	139	230.1	99.6	130.5	389	162	758.1	
1891	191	287.7	114.9	172.8	437	200	915.7	
1892	239	319.5	127.7	191.8	454	204	1012.5	
1893	283	285.4	110.8	174.6	427	148	995.4	226.5
1894	330	267.8	102.8	165.0	454	172	1051.8	207.3
1895	368	307.7	115.3	192.4	580	331	1255.7	197.7
1896	409	305.2	133.6	171.6	556	324	1270.2	185.8
1897	466	354.0	150.4	203.6	560	332	1380.0	199.3
1898	537	448.1	168.4	279.7	698	419	1683.1	205.8
1899	608	551.3	231.3	320.1	684	472	1843.4	204.2
1900	662	547.9	245.6	302.3	813	594	2022.9	195.6
1901	723	536.1	235.2	300.9	671	480	1930.1	167.6
1902	784	544.9	229.9	315.0	738	499	2066.9	183.9
1903	861	613.3	236.0	377.3	726	354	2200.3	257.5
1904	911	722.1	264.6	457.5	854	554	2487.1	231.0
1905	831	775.6	254.4	521.2	650	351	2256.6	255.1
1906	1035	671.4	214.2	457.2	554	290	2260.4	263.8
1907	1149	760.9	217.0	543.9	587	301	2496.9	249.2
1908	1208	818.1	239.8	578.3	640	357	2666.1	231.1
1909	1283	976.8	290.1	686.7	695	433	2954.8	309.7
1910	1397	1262.2	334.0	928.2	739	427	3398.2	273.7
1911	1503	1675.0	422.9	1252.1	937	651	4115.0	261.3
1912	1595	1817.3	528.9	1288.4	1134	857	4546.3	258.3
1913	1685	2293.3	657.7	1635.6	1154	873	5132.3	266.0
1914	1835	2539.0	752.9	1786.1	1228	951	5602.0	263.1
1915	2449	2873.2	711.3	2161.9	1126	602	6448.2	
1916	3890	3931.1	632.9	3298.2	1835	794	9656.1	
1917		6747.6	678.1	6069.5	2892	1357		

統計表 1 (つづき)

Table 1 continued.

	9	10	11	12	13	14	15	16
	商業銀行貸付 Lending of Marchant banks	通貨流通量 Money supply						
		銀行紙幣 Banknotes	金貨・銀貨 Gold and silver coins	流通中現金 Currency in circulation	商業銀行保 有現金 Currency held by marchant banks	自治体営銀 行保有現金 Currency held by communal banks	金貨・銀貨 Gold and silver coins	一般保有現 金・金属貨 幣 [11] - [12] - [13] + [14] Money held by public
1861		713						
1862		714						
1863		691						
1864		637						
1865		664						
1866		662						
1867		697						
1868		675						
1869		703						
1870		694						
1871		695						
1872		752						
1873		748						
1874	108.6	774						
1875	113.1	764						
1876	106.5	752						
1877	90.0	767						
1878	82.1	1015						
1879	100.3	1153						
1880	106.5	1130						
1881	109.2	1085						
1882	127.9	1026						
1883	121.2	973						
1884	123.5	959						
1885	130.7	900						
1886	137.2	907						
1887	158.9	941						
1888	166.8	971						
1889	161.6	973						
1890	163.7	928						
1891	164.3	907						
1892	169.4	1055						
1893	192.2	1074		1084.1	24.8	6.8	67.0	1119.5
1894	189.0	1072		1071.9	23.2	8.0	67.0	1107.7
1895	231.1	1048		1047.7	27.6	7.5	67.0	1079.6
1896	253.9	1055		1055.3	126.0	8.3	67.0	988.0
1897	257.2	1068	66	1067.9	30.9	8.0	67.0	1096.0
1898	253.9	901	227	901.0	37.4	6.9	236.7	1093.4
1899	290.4	662	573	661.8	36.9	6.1	572.6	1191.4
1900	274.5	491	786	491.2	32.2	5.9	787.8	1240.9
1901	258.3	555	829	555.0	31.8	8.1	828.9	1344.0
1902	236.2	542	834	542.4	32.5	8.6	833.3	1334.6
1903	246.3	554	870	553.5	34.3	7.9	869.2	1380.5
1904	258.3	578	908	578.4	38.4	7.8	906.8	1439.0
1905	250.5	854	807	853.7	43.7	7.2	806.6	1609.4
1906	288.8	1208	971	1207.5	44.2	6.8	971.2	2127.7
1907	285.1	1195	762	1194.6	39.3	6.6	761.7	1910.4
1908	286.2	1155	742	1154.7	40.1	8.2	742.0	1848.4
1909	286.5	1087	672	1087.1	41.9	7.7	671.6	1709.1
1910	331.3	1174	693	1173.8	48.3	8.0	693.4	1810.9
1911	530.3	1234	758	1234.5	64.1	6.7	757.6	1921.3
1912	633.2	1326	774	1326.5	68.6	6.5	773.4	2024.8
1913	895.0	1495	749	1495.0	95.3	6.4	749.2	2142.5
1914	998.0	1665	617	1665.0	106.0	6.8	617.0	2169.2
1915	931.4	2947	601					
1916	1011.0	5617	588					
1917	1456.9	9104	580					

(注)

- 1) 株式会社銀行 (2) は、商業銀行と自治体営銀行を含む。
- 2) Drummond の流通中現金系列 (12) は、 Gosbank 保有銀行紙幣を除く銀行紙幣流通残高。
- 3) (12) 系列は、 Khromov の銀行紙幣系列 (10) と一致している。
- 4) Khromov の系列 (5) - (6) で計算したロシア帝国 Gosbank 保有預金から国庫金を除いた額は、 Drummond の系列 (8) とは一致していない。

(出所)

- (1) : Mitchel [1993] ;
- (2) - (6) , (9) : Khromov [1950] pp. 531-545 ;
- (8) , (10) - (15) : Drummond [1976] .

(注)

- 1) 記号-, --は、それぞれデータが存在しないことと、定義されないことを示す。
- 2) ソ連ゴスバンクのバランスシート項目は、Kashin and Mikov (eds.) [2010] に依拠している。バランスシートの作成方法、項目の定義は頻繁に変更されているため、大項目に集計している。#記号のついた年は、旧作成方法・定義と新作成方法・定義による2つの数字がある。それらは完全には比較可能ではない。
- 3) 家計預金には協同組合他の団体、機関の預金が含まれる。1925/1926年から1961年の家計預金は貯蓄金庫預金を示す。貯蓄金庫のソ連ゴスバンクとは統合されていないので、この時期の家計預金はソ連ゴスバンクのバランスシート項目ではない。1961年から1987年の家計預金は、ソ連ゴスバンクのバランスシート項目としての家計預金であり、貯蓄金庫の預金とゴスバンクが受け入れた家計預金を含む。ゴスバンクが受け入れた家計預金の金額は無視できる程度である。二層式銀行制度への移行を目指した1988年の銀行制度改革のため、1988年以降のバランスシートは、それ以前のバランスシートと比較可能ではない。家計預金も同様である。Kashin and Mikov (eds.) [1990] (p. 75)によれば、全銀行システムが受け入れた家計預金は、1987, 1988, 1989年の各年末で2,672, 2,981, 3,415億ルーブルであり、大部分は貯蓄金庫預金である。
- 4) 対外国政府貸付は、1956年までは対外資産項目に含まれており、1957年のバランスシートから独立したバランスシート項目となっている。対外国政府貸付の内容は、対社会主義国貿易の貿易収支不均衡である。ソ連の場合、対社会主義国貿易黒字が累積していたため対外国政府貸付は増大している。この対外国政府貸付は対外資産であるものの、外貨で返済される見込みはなかった。そのため対外国政府貸付を対外資産項目から分離したものと推測される。
- 5) 全銀行貸付は、ゴスバンク以外の銀行を含む全銀行による長期・短期、対経済部門・対非経済部門のすべての貸付残高を示す。ソ連ゴスバンクは、対経済貸付のうち長期貸付（農業協同組合による投資、消費組合による投資、住宅建設等）はほぼおこなわず、専門銀行がおこなう。対非経済部門の貸付は、家計（月賦、住宅ローン等）、諸社会団体等に対する貸付。

(出所)

- (1) - (10) ソ連ゴスバンクバランスシート項目 : Kashin and Mikov (eds.) [2010] ;

(11) 全銀行貸付総額：『ソ連統計年鑑 1958年版』(p. 908)，『ソ連統計年鑑 1960年版』(p. 849)，『ソ連統計年鑑 1962年版』(p. 641)，『ソ連統計年鑑 1963年版』(p. 776)，『ソ連統計年鑑 1965年版』(p. 788)，『ソ連統計年鑑 1968年版』(p. 779)，『ソ連統計年鑑 1970年版』(p. 737)，『ソ連統計年鑑 1975年版』(p. 746)，『ソ連統計年鑑 1980年版』(p. 528)，『ソ連統計年鑑 1985年版』(p. 566)，『ソ連統計年鑑 1990年版』(p. 301)；

(12) 対経済国家予算支出：1938年以降の国家予算データと比較可能な1924/1925年から1930年のデータ：『文書館資料 ソ連の金融：統計集』pp. 25, 29，『文書館資料 1923/24-1943年のソ連国家財政執行の経済的レビューとソ連国家財政資料』p. 119, 127, 129；同様に比較可能な1931年から1970年のデータ：『文書館資料 ソ連の金融：統計集』pp. 21-25，『文書館資料 ソ連の金融：統計集，1961-1962年』p. 9，『文書館資料 ソ連の金融：統計集，1963-1964年』，『文書館資料 ソ連の金融：統計集，1965-1966年』，『文書館資料 ソ連の金融：統計集，1968-1969年』，および『文書館資料 1970年のソ連国家財政執行報告』。ただし，1940年から1945年を除く。1940年から1945年は，『ソ連統計年鑑 1989年版』(p. 215)；1970年以降は，『ソ連統計年鑑 1975年版』(p. 742)，『ソ連統計年鑑 1980年版』(p. 522)，『ソ連統計年鑑 1982年版』(p. 521)，『ソ連統計年鑑 1984年版』(p. 573)，『ソ連統計年鑑 1985年版』(p. 559)，『ソ連統計年鑑 1990年版』(p. 16)。